発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間（秒）	インターネットと関連づける文字情報（telop &newspaper）	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
		15	EX	293	インターネットで知り合う？男女7人が集団自殺／「ネット心中」か？相次ぐ集団自殺／面識はなくインターネットで知り合った・・・？／ネット心中／「ネット心中」か？相次ぐ集団自殺／見ず知らずの者同士　インターネットで知り合う	精神科医大見山浩一	死にたいという気持ちがあってそれがまわりでわかってもらえない。そんな時に死にたい気持ちをわかって共感してくれる人たちがいる。そういう時に集団自殺が起きやすい。／普段だと7人という人数は集まらないと思う。しかし最近はネットが普及しだれでも自分の気持ちをネットで表現し、共感したい人たちが集まりやすい環境になっている／まわりで自殺する人がいた場合「自殺することが正しいのではないか、あるいは自分の考えが肯定された」そういう気持ちになって自殺を助長する	死にたいという気持ちが打ち明けられた場合、きちんと話を聞いてまわりで手助けすることが必要（大見山浩一）	略	N
		16	EX	370	ネットと練炭／相次ぐ集団自殺　ネットの世界に残る“闇”／インターネット／自殺サイト／	ネット社会に詳しい早大教授	身内と他人がネットというメディアを境にひっくり返った。心の中ではネットで知り合った人たちが一番自分の気持ちを理解しあえる人と思い込んでいる。それが「ネット心中」の特殊性／死ぬことが「みじめ」だと思いたくないので何となく美化したいわけ。仲間の中で自分だけおりるとは言いにくい「皆で渡ればこわくない」じゃないけど、皆で死のうステップを飛びこえる	N	略	N
		17	TX	310	ネット心中？男女7人集団自殺／“ネット心中”か？男女7人がなぜ・・・／埼玉・皆野町　9月28日　4人がネット心中した現場／警察　自殺をテーマに取り上げたサイトで知り合ったとみられる／インターネットで心中相手を募集した集団自殺	精神科医	「絶対に死にたい」というよりは、つらいところから逃げたくて集団を作る。家族が気が付かない。あとで家族や友だちが聞いて驚く。我々精神科医のレベルに引っ掛かってこない	N	略	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop &newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
		18	NHK	514	自殺未遂後の女性ら"インターネットの自殺志願者のホームページで知り合った"／自殺未遂の4人"インターネットの自殺志願者のホームページで知り合った"／集団自殺　インターネット／	N	N	N	略	N
		19	NTV	394	警察　今回の2つの事件もインターネットで知り合った可能性／警察　2人が再びインターネットで仲間を募り自殺を図った可能性もあるとみて捜査／警察　遺族からパソコンの任意提出を求め7人の知り合った経緯について調べる／警察　2人がインターネットで仲間を募り再び自殺を図った可能性があるとみて調べる／自殺に関するホームページ／インターネットによる集団自殺者	N	N	N	略	N
		20	NTV	217	自殺サイトで知り合ったのか？／ネット仲間？2つの自殺集団奇妙な接点とは・・・	N	N	N	略	N
		21	NTV	1172	自殺系サイト／ネットによる集団自殺者	臨床心理士	それぞれお互いのことは知らない別に絆も感じていない。背中を押してくれさえすれば・・・／	死のカウンセラーと言われるような首謀者がいるんでね、そういうものに対してやはりあの刑事上の処罰をするというような対応というのが必要なんじゃないですかね(有田)／かなりナンセンスな意味の無い、何の目的でやっているのかわからない、そういうふうなサイトが異常に増えてきているんですね。そういうものに対してやはり制限をするべきなんですね(ゲスト)	略	N
						日本いのちの電話連盟常務理事	1人で死ぬのが怖い。仲間がいることで安心する／電話であっても直接リアルタイムでコミュニケーションができる関係があれば、やっぱり気持ちというものは少しずつポジティブに明るい方向に向いてくるんですけどね			
		22	TBS	1128	皆野町で自殺した女性　横須賀市で自殺した女性　今月5日　東京・奥多摩町で自殺未遂→インターネットを通じて知り合う？／インターネットで"集団自殺"か／ネット自殺問題に詳しいフリージャーナリストの渋井哲也さんは／この集団自殺をほのめかすような内容の書き込みがインターネットに・・・／集団自殺、インターネットの掲示板に衝撃のコメントが・・・／j自殺系サイトの現状は？／ナゼ？集団自殺　サイト実情とその心理／今も多くの自殺系サイトが存在／インターネットで出身地の違う集団	自殺系サイトに詳しいロブ@大月氏	(自殺系サイトは)大手のプロバイダーからは除外される傾向が昨年あたりからある／除外しても海外のサーバーや自宅サーバーでネット心中の相手を募るホームページを続ける／(ネットで出会って)親近感がわき「自分だけじゃない」と無意識に結びつく／精神科医やカウンセラーであれば治療という形で持っていけるが「死ぬ」という同じ目的で重なり合うと集団自殺が簡単に起こってしまう	自殺防止のために専門家の意見・自殺系サイトをチェックする機関が必要　・電話などのコミュニケーションが苦手なので悩みを打ちあけやすいサイトを作るべき(大東文化大学　社会心理学　教授)【FC】	いずれもインターネットに精通し	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間（秒）	インターネットと関連づける文字情報（telop &newspaper）	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
埼玉県皆野町／神奈川県横須賀市	10/13	23	TBS	440	男女9人　集団自殺か？インターネットで知り合う？／男女9人が集団自殺!?インターネットで知り合ったのか？／横須賀の女性2人もインターネットで知り合う？／急増する「ネット心中」／インターネットで・・・	上智大学名誉教授	見ず知らずの人が集まった場合にはわがままが言えないってことですね。しかもその自殺をするっていう方向性が同じで志が同じだということで集まりましたからね、じゃあ死ぬのはやんなっちゃったと引き返したいということが出来なくなるということがあるんです	N	略	N
		24	CX	399	“ネット心中”相次ぐ・・・／集団“ネット心中”か／警察　7人がインターネットで知り合い集団自殺したとみて捜査／埼玉と神奈川で“ネット心中”／自殺関連サイト／9月28日　サイトで知り合った男女4人が自殺／この2人もインターネットの自殺関連サイトで知り合う	N	N	N	自殺関連サイト、プロバイダーを規制しないとますます増えそうですね（司会者）	N
		25	CX	420	N	クリニック院長	1人だとなかなか自殺を実行できない。周りに共感してくれる人がいない。ネットの普及で死にたい人が集まり集団自殺になった可能性はある／	N	略	N
						インターネットで自殺志願者の相談を受けるA氏	「なぜ？」「どうして死にたいの？」そういう一言をかける人が現れてくれると方向性も変わるかもしれない			
		26	EX	367	「同時ネット心中か」（産経新聞）／インターネットで知り合う？／インターネットで知り合った？／女性2人もインターネットで知り合ったと見られる・・・／後を絶たない“ネット心中”／ネット心中／相次ぐネット心中／“ネット心中”（警視庁調べ）去年12件34人　今年上半期5件11人	N	N	「たとえインターネット上の書き込みであっても自殺の手段を提供したりだとか、また決意を精神的に助けたりするとこれはれっきとした自殺幇助罪に問われます。ただ法律だけではこの集団自殺の抑止力にはならないのかもしれません」（アナウンサー）	「インターネットで仲間を募ったネット心中と見られているんですけども、警視庁によるとネット心中で一度に7人が死亡したのは過去最多」	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop&newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
		27	EX	1236	同時ネット集団自殺か？車中に七輪・睡眠薬・・・／自殺志願者を募集する人は――／Q.こういう掲示板を出す人は一緒に死んでくれる人がいたらうれしい／本当にそういう人が現れたらうれしいですよ。本当の気持ちとしては――／夫の証言　2人はネットを通じて知り合ったのではないか？／自殺志願者募集サイト／インターネット上には自殺志願者が仲間を募るサイトが数多く存在――皆野町の7人も横須賀の2人もこのサイトで知り合った可能性が――／インターネットで仲間を募る自殺志願者の実態とは――／自殺志願者を募集する人は――／わかりますよ。びっくりしたじゃなくて当たりがよかったなと。私の周りの人は皆そう思ってますよ。「当たりがよかったね。なんでその仲間に私が入ってなかったんだろう」と思います。そうです、はい今までずっと探してたんですけど――いつもいたずらとかしかないんですね。だから埼玉は当たりだったねって――。本当に(死にたいと)思ってる人にはなんかうらやましいって感じ。気持ち的には「逝きたいな～」とは思っても、実際にそういう風になると怖くて実行ができないんですよね。そうですね一人では怖いからやっぱり一番楽な方法で何人か一緒だったら怖くなくなるんじゃないかなと思ってみんなそう思っているんですよね。本当にそういう人が現れたらうれしいですよ。本当の気持ちとしては。それでこの間埼玉に本当に逝けたんじゃないですか。でも「うらやましいね～」とか私みたいに仙台に(志願者の)女の子がいるんですけどこの前ちょっと話して「当たりだったね～」とかメールしながらそう思ってるんですよ。今もたまにそのサイト見てるんですよね。それでちょうどそういう実行する組があれば仲間に入れてもらいたいなって。それは当たりがいいからですよ。私はもう4ヵ月くらいは探してるんですけど見つからないんですよ、だからこの前の埼玉は当たりですよ(車中携帯電話でインタビュー)	※スタジオゲスト(コラムニスト、作家、ジャーナリスト)によるコメントあり		N	略	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop&newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
		28	EX	738	ネット心中か？／“ネット心中”と思われる集団自殺／ネットで仲間を・・・相次ぐ集団自殺　このままでいいのか？	臨床心理士	人が同時に一緒に死ぬっていうのは心中とかですね、その相手と深い絆があって、それで一緒に死ぬと、例えば一家心中なんかでもその家族の間でそれなりの一体感があるわけなんですよね。無い人たちが一緒に死ぬっていう現象がここのところ目立っているわけです。これについてはですね、自分が自殺を決行するための一種のツールになってくれればそれでいいというようなですね。お互いを道具視している。(音声)	N	略	N
		29	EX	250	自殺サイト	フリージャーナリスト	あーやっぱりやっちゃったのかなと思いました／青森から福岡、埼玉から来る人がいると、みんな集まったらたくさんになるので、その人数としては新しい感じ(＝自殺の仕方)ですよねってメールに書いてあった／「やる(自殺)とおもっているんでしょう。やらないから大丈夫だよ」って言っていた／本当かどうか分からないけど「会いたいから連絡してよ」って言って電話をきった	N	略	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop&newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
	10/14	30	EX	1134	ネット集団自殺　知人に語られた"衝撃の内容"／今年8月、自殺サイトである少年と知り合った／マンが喫茶を転々としながら自殺サイトを利用／ネット集団自殺の実情　なぜ集団で？	自殺した女性を知るジャーナリスト	何度も自殺未遂を繰り返している／自殺をテーマにしたチャットで知り合ったみたい／僕の知る限り5～6回／人間関係がうまくいかない／虐待とか暴力はけっこう受けていた(父と母)両方からです／本人(少年)は家出してきたと言っていた／マンが喫茶にずっといればお金がかかるし、彼女は、友達の家を転々としていたので自分の部屋を少年に貸していた／25日の夜、少年から電話がかかってきて泣きながら、どうしていいかわからない／やっぱり、最後の電話で(自殺を)ちゅうちょしていたみたい／彼女も(j自殺を)止めていたから残念がっていたし、葬儀にも出席し、帰ってきて部屋で1日泣いていたと言ってた／集まった人数は最初8人、打ち合わせや下見をしているうち、どんどんぬけていった(中略)今度はうまくやりたいと言っていた／車、練炭、睡眠薬を集める他の人たちは死ぬための道具			

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop&newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
	10/16	31	TBS	829	いまネットで何が・・・集団自殺の闇！？／ネット集団自殺／ネット集団自殺A子さんの“声”／無縁の男女7人車中で集団自殺　今週のニュースで・・・見えた事　インターネットで集まった！　見えない事　インターネットで促された？／A子さんのホームページ／A子さんが“ネット”に頼った心／A子インターネットで人に多重人格の事をはじめて話したんですよ／A子の告白「多重人格」彼女が見た自殺系サイトの闇／A子さんが開設していたホームページ／それですごい頭ハッキリさせてもらって／過去に自殺系サイトにアクセスしていた女性(18歳)／自分も引き込まれそうになったので(自殺系サイトは)怖いところだと思います／集団自殺によって今、自殺系サイトが次々とネット上から削除されている／インターネットの功罪／インターネット→(死への後押し)自殺／インターネット→(生への後押し)多重人格／“自殺系”サイト訪問経験者の声	A子さんの主治医	催眠をかけたら(いろんな人格が)すっと出てきた／最終的には12ですね／リーダーとなる人格はエリで非常に利口で感性も鋭かった／【Qリーダー格のエリが自殺願望を持っていたのか？】それは考えられない／【Q他の人格が自殺と言いだしたらエリはどうした？】たぶん抑えたはず	N	※「多重人格を苦にしての自殺ではありません」「ネット上で議論していく時の教育(インターネットリテラシーへの言及)」(アナウンサー)	A子さん　自分が多重(人格)と思いたくない嫌なんですよ／解離性同一性障害(＝多重人格)
						自殺半月前、A子さんと会ったフリーライター	(A子さんは)ちょっとほおがこけていた感じ／A子さんはインターネットにはまっていたが支えになっていた／友達がいたし同じ病気の人が交流／(インターネットは)彼女の居場所／A子さんは誰かの自殺を止めたことがあると言っていた			
						ノンフィクション作家	全員が本当に死にたかったかどうかは分からないが少なくとも自殺を決行する前に葛藤はあるはず。集団であれば葛藤しているところとかもう一歩で踏みとどまっている背中を押してくれるところはあると思う／今までかろうじて掲示板の中で悩みを吐き出して生きてきた人たちが集まるサイトがどんどん削除されている／数的にはサイトによって自殺を回避できたケースが圧倒的に多い／(命を)つなぎとめているサイトが消えることは第2の事件が起きる可能性を高めている			

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop &newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
	10/17	32	TBS	644	なぜ続く？ネット集団自殺／相次ぐ集団自殺　接点はインターネット／"インターネット"／インターネット利用者数／ネット自殺／「ネットで集まった仲間と自殺を決行する」／インターネットで知り合った集団自殺(警視庁調べ)／自殺した男女が知り合ったホームページ／インターネットがつなぐ闇／インターネットで自殺する人を募る声／インターネットが出来るパソコンがあれば誰でも見る事が・・・／今回自殺した人達が接点を持ったホームページも／集団自殺をした人たちの接点となったとされるホームページ／「ネット集団自殺」海外でも問題に／相次ぐ集団自殺とインターネット社会／インターネットで知り合った集団自殺	インターネットに詳しいジャーナリストM	ほとんど個人で作っている／作っているのは自殺に興味がある人、自殺願望がある人、引き留めたいと思っている人／(こうしたホームページは)いくら閉鎖しても出てくる／日本で作れなくなっても海外では作ることが出来る／完全に消す事はできない	N	略	N
						新潟青陵大学社会心理学教授	インターネットでは「はじめまして僕自殺したいんですが」が可能／自殺以外のことでお互いに何も知らないから止めるような材料をお互いに持たない／普通の若者達の間に「死にたい気分」が蔓延している／生きる意欲をなくしていたり生きていても良いことがないと			
		33	CX	718	「自殺系サイト」の実態／自殺掲示板／男女7人なぜ・・・"自殺系サイト"実態／自殺系サイトにアクセスしている人たちに聞きました　集団自殺した7人についてどう思いますか？①もし私も早い状況で知っていたら、一緒に自殺していたと思います　②正直、私も一緒に連れて行ってほしかった　③苦しみから解放されて良かったと思います　④彼らの命を救えなかったものか、悲しいです　⑤自殺する前にほんの少し立ち止まって欲しかった(EZ！TV調べ)／男女7人が集団で"自殺系サイト"の謎／インターネットで自殺志願者を募集／自殺系サイト／自殺系サイトを見たことがありますか？ない95人　ある5人(EZ！TV調べ)／2年で約19万件からのアクセス／自殺系サイトの管理人(31)何もできないけれど何かできていると思う。気持ちを吐き出す場所がある。すごく意味のあること／自殺系サイトでの集団自殺者　30人(今年)EZ！TV調べ	フリージャーナリストS	自殺未遂を繰り返している／本当に死にたいと思った	N	略	N
						フリーライターロブ@大月氏	同じ悩みを持つ人／生きる方向へ向かうことの方が多い			

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop&newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
[illegible]	11/11	34	NHK	453	特集“ネット自殺”どう防ぐ／ネット自殺　連鎖は止められるか／ネット自殺をどう防ぐのか／ネット自殺どう防ぐのか	東京学芸大学助教授(精神医学)	自分の顔を隠した状態だと何でも言えてしまう／なぜ自殺したいのかいろいろな理由や経緯がある／本当は言いたくないかもしれないがそれを聞いてくれるならここでは表現しても大丈夫だという前提で少しずつ気持ちを出していく／意図はなくても相手を傷つけてしまう言葉がストレートに伝わってしまう／それがいったん起こり始めると非常に場が荒れてしまい癒されるはずが逆に傷ついてしまうことがある		略	N
						日本オンラインカウンセリング協会Oさん	(カウンセラーの数は)増えてはいるがまだ足りない／教育していく機関も少ない／数としては足りていない	N		
箱根町	11/17	35	NHK	63	N	N	N	N	N	N
福岡県福岡市／兵庫県篠山市	11/21	36	NHK	116	N	N	N	N	N	N
	11/22	37	NHK	220	※これまで交友の形跡出てこず／警察　自殺扱ったサイトで知り合った可能性もあると見て調べる	N	N	N	警察はいずれもインターネットの自殺を取り扱ったホームページで知り合って自殺した可能性もあるとみて調べています	N
	11/22	38	NTV	255	N	N	N	N	(10月12日の件)インターネットを通じて全国から集まった集団自殺でした。ここで亡くなった3人の関係はまだ分かっていませんが警察ではインターネットが接点になった可能性もあるとみて捜査しています。	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間（秒）	インターネットと関連づける文字情報（telop＆newspaper）	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
		39	CX	47	N	N	N	N	警察ではインターネットで知り合い集団自殺を図ったものとみています	N
つくば市	11/23	40	TBS	71	※女性2人の遺体　練炭自殺か	N	N	N	N	N
東京都練馬区／群馬県水上町	11/28	41	NHK	82	警視庁“4人はもともと面識なくインターネットで知り合った可能性”　※集団自殺　4人は面識なかった可能性／集団自殺　面識ない4人か／男性4人　練炭燃やし集団自殺	N	N	N	※警視庁は4人が知り合った経緯について詳しく調べています	N
		42	TBS	54	N	N	N	N	N	N
	11/29	43	NHK	92	集団自殺の4人　メールやりとり／死亡した4人　メールで“自殺願望”伝えたり自殺の方法相談したりした疑い	N	N	N	略	N
		44	NTV	259	N	N	N	N	こういった件ではインターネットで知り合いまして、それまでまったく面識のなかった人達が集まって自殺に至るというケースが多くなっているんです	N
		45	TBS	106	自殺ほのめかすメールを交換／4人は1か月前からメールを交換→自殺をほのめかす内容	N	N	N	警視庁は4人がインターネットで知り合い集団自殺を計画した可能性が高いと見て詳しく調べています	N
		46	CX	86	※集団自殺相次ぐ／男女3人車内で集団自殺	N	N	N	このところ増えているネットで知り合った者同士の集団自殺と見られる	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間（秒）	インターネットと関連づける文字情報（telop＆newspaper）	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
		47	EX	197	集団自殺はネット心中？簡単に「死」を選択／同じ考え集まり簡単に「死」選択　ネット通じ連鎖反応（毎日新聞）	N	N	N	室内にあったパソコンには4人と見られる人物がじさつにつながるメールをやりとりしたという様子が分かりました	N
静岡市	11/30	48	NHK	139	ネットで知り合い集団自殺か／足利市の女性のパソコン ネット通じ女子高生と自殺計画のやり取り残される／警察 ネットで知り合い集団自殺か／集団自殺　ネットで計画	N	N	N	略	N
		49	TBS	128	N	N	N	N	N	N
練馬区	12/5	50	TBS	83	インターネットで知り合ったとみられる集団自殺／	N	N	N	インターネットで知り合った若者たちが集団自殺したとみられる事件（司会者）	N
大分県弥生町	12/7	51	TBS	49	N	N	N	N	警察では住所や職業などに接点が見当たらない事からインターネットなどで知り合い集団自殺を図った可能性が高いと見て調べています	N

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報(telop &newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
愛媛県九万高原町	12/14	52	NTV	105	ネットで知り合い男女自殺／調べ　男性がインターネット掲示板で自殺呼びかけ	N	N	N	略	N
	12/14	53	TBS	146	警察　インターネットで知り合い自殺を図ったものとみて捜査	N	N	N	警察では3人がインターネットで知り合い自殺したものと見て調べています	N
	12/15	54	TBS	159	「妻は最近インターネットに凝っていた」練炭販売店はサイトに人生相談リンク(日刊スポーツ)	N	N	N	略	N
横浜市	12/23	55	CX	29	N	N	N	N	N	N
	12/26	56	TBS	1343	インターネットの落とし穴／多発するネット自殺／ネット自殺／「死にたい」20代女性の苦悩　インターネットで仲間を探した／集団自殺・ネットの落とし穴／女性の一人が「自殺系」サイトにアクセスしていた／インターネットの世界／ネット自殺の連鎖を止めろ！／多発するネット自殺	新潟青陵大学心理学教授	行動にブレーキをかける人間がいない／	大切な人を亡くして本当に身も世もない悲しみ、深い悲しみをもっている人たちのためにその人を慰めて力づける、そういう言葉をインターネットにアップしています／	略	神経症性うつ病　社会恐怖／神経科に通院するこの女性／育児ノイローゼ
三珠町	12/30	57	EX	53	N	N	N	N	N	N

平成16年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
「Webサイトを介しての複数同時自殺の実態と予防に関する研究」
分担研究報告書

社会における実態に関する研究
－（3）大学生を対象としたフォーカスグループインタビュー調査－

分担研究者　堀口　逸子（順天堂大学医学部）
張　賢徳（帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科）
研究協力者　赤松　利恵（お茶の水女子大学生活科学部）
柄本　三代子（法政大学ほか）

研究要旨

本研究では、Webサイトを介しての複数同時自殺について、その自殺者となっている若年層である大学生を対象として、それをどのように捉えているのか、また実際の自殺事例から想定された記事についてどのような印象を受けるのかなどを、質的研究によって明らかにした。その結果、新聞報道に対する信頼性が最も高く、事実を知ることに重点を置いていた。各種情報媒体の利用は、インターネットに最も多くの時間を割き「調べる」ことや商品購入など日常生活に利用していた。今回の対象者はインターネットという情報媒体の特性を同等に考えていた。しかし、Webサイトを介した自殺者に、それを使いこなす能力、メディアから流れる情報を取捨選択して活用する能力であるメディアリテラシーが影響した可能性も否定できない。対象者は、また精神科や精神疾患に対する受け止め方がそれぞれ両極端に異なっており、精神科、精神疾患などに関わる社会的認識の向上を図るためのコミュニケーションが今後必要かつ重要と考えられる。また、想定記事中の詳細な自殺方法などの内容から、報道による連鎖自殺も危惧しており、日本においても自殺に関するメディアガイドラインを早急に整備する必要があると考えられた。

A　目的

2003年2月にインターネットの自殺関連サイトを通じて知り合った若者が複数同時自殺（心中）して以降、同様の事例が続発している。この自殺は、自殺事例のなかのごく少数を占めるにすぎないが、インターネットのWebサイトを介して同時に自殺する者を募るという、これまでになかった方法を採ることから、メディアの注目を集めている。この自殺の特徴は、自殺に至るまでの経緯の出発点としてWebサイトを利用すること、自殺者がインターネット利用者の多い若年者であること、そして見知らぬ者同士の複数同時自殺となっていることである。そのため、インターネット利用者として若年者が、自殺およびWebサイトを介しての複数同時自殺（以下ネット自殺とする）をどのように捉えているのか、また報道記事に対してどのように感じるのかなどを明らかにすることを目的として質的調査を実施した。

B　対象と方法

対象者は、学生組織であるＮＰＯ法人 gapyear japan を通じ有意抽出された東京都内の大学に通学する学生で、調査の同意が得られた１２名（男６名、女６名）である。対象者は、インターネットに関する討論会として募集をかけている。グルーピングは男女混合で１グループ６名の２グループとした。

インタビューは、筆者２名が実施し、各グループとも研究協力者が２名観察者として参加した。記録はテープ録音によった。インタビュアの自己紹介で所属先を公表し精神科的内容であることが学生に公開された。質問内容は（１）インターネットを中心とした情報媒体の利用。（２）自殺およびネット自殺について感じること。（３）ネット自殺に関する記事（想定記事を含む）について感じること。の３項目である。（３）については、実際の事例の新聞記事、そしてその記事から想定できる報道記事を３パターン作成し、対象者からの意見を得た。作成された報道記事３つ（バージョン１、２、３）は、すべて横書きであり、詳細な自殺方法また自殺者の身元に関する情報を加えた。そしてまたバージョン２では小見出しに「精神科通院歴」、バージョン３では同様に「うつ病などで」との疾患名および「精神科通院歴」を出した。

分析では、テープ録音による会話内容を文字化する「テープ起こし」から、発言の内容を適切な長さに断片化（フラグメント化）し、発言の意味がわかるように最小限の言葉を補い（エディティング）、さらに、エディティングされたインタビューの内容をKJ法で分析した。分析にあたっては、調査者の先入観や思いこみを最小限に押さえるために、筆者と、当教室研究生１名の２名によった。分析に際しては、発言の意図や言外に含まれる意味にも細心の注意を払いながら行った。

C　結果

学生の背景として、テレビ（無しから１時間半程度）、パソコンの所有（無いものは学校などで利用）、新聞購読の有無（無しから２紙、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞）、インターネットの利用開始時期（中学生から大学生）、インターネットの利用（利用者はほぼ毎日であり、１日１時間未満から５，６時間の範囲。時に丸１日）、チャット（パソコン）利用経験の有無、についてそれぞれ異なっていた。利用目的としては、主として学業、趣味を始めとした「情報検索」に用いており、物品購入（本・チケット・趣味のもの、オークションなども利用）にも利用している。またニュースや天気予報を見ていた。インターネットおよび携帯電話でのチャット利用は、電話での会話より費用が安いため、携帯電話でのチャットで、何気ない用事もない場合の会話をしていた。自分のホームページがあるもの、サイトの運営者、趣味でソフトウエアを開発するものがいた。また心理学専攻の学生のなかに、精神科医院での受付アルバイト経験者がいた。また周りにリストカット、過食症、拒食症、精神科へ通院している人、またうつ病から回復した友人や自殺防止サイトを利用して立ち直った友人をもつものがいた。全員にメディアリテラシーの教育経験はなかった。

１）各種情報媒体について

情報媒体全般に対して、情報を選別する人がおり、得られた情報が全てではなく 100%信じることはなかった。メディアの限界があると認識されていた。情報を選別することからも、情報が操作されている危機感を持っていた。そして学生たちを煽り、いろいろな不安を抱かせる原因となっていると感じていた。しかし、分かった情報を全て知らせるのは、メディアの義務であると考えていた。報道内容に対しては、自分が見た事実がまずは絶対的に信頼しているのだが、事件があった事実報道に対しては 90%以上信じていた。同じ事柄でもメディアによって強調したいところが異なっていると感じていることからも、本当の真実は知りようがないのだが、事件発生などの事実を知りたいと考えていた。

新聞については、正確性についても信頼性についても学生間でばらつきがあった。しかし、新聞のイメージとしては「事件」としての認識が高く、活字からは重たいイメージを抱いていた。利点としては、小見出しまでで大筋がつかめることを上げていた。記事内容についても、会社間で同じことを書いていると感じているものから、異なっていると受け取っているものまでいた。

テレビについては、「大体の情報、どんな事実が起こっているのかを得るために利用」し「新聞よりは新しい」としていた。正確性については、「新聞と同じ」としたものから、「絶対に正しいと思わない」ものまでいた。信頼性が低い原因として、「通信社からの情報に偏りがある」とし「放送のされ方、出し方によって正確性が異なる」としていた。

インターネットについては、対象者の共通認識として、特徴としては、「何かを知って何かをする機械にしかすぎない」、「同志（同じ考え、目的などをもつもの）が見つけやすい、集まりやすい」「詳細な情報が書いてある」「行数に限りがない」と捉えていた。長所としては「探したいものが即座に見つかる」「直接的に集中的に調べることができる」「情報の更新が早い」「娯楽と実益、アカデミックなことを兼ねている（同じ画面上でもできる）」ことを上げていた。短所として「信憑性が危うい」「考え方が偏りがちになる（自分の好きなものしかみなくなる）」「調べた結果や個人のサイトの情報が正しいかどうかがわからない」としていた。インターネットでのチャットや掲示板での相手については、「文字を多少多く書こうが影響を与えない」「必ず返信が来るとは限らない」「人と話したほうがよい」と考えていた。

自殺関連サイトについては、まず、自殺を誘引するサイトについて、無いにことにこしたことはなく存在していることは悪いと思うが、時代の流れから止めることはできず仕方がないと思っていた。しかし、有害サイトとして認識しており、国の規制がよいかどうかはわからないが、第三者機関から規制があればよいとしていた。そして、自殺サイトは、自殺関連ニュースでそのニュースサイトから見た経験があるものが複数いた。その印象は「画面が暗く重たい」であり、その結果「気持ち悪くなり」「見る気をなくし」「危ない（やばい）と思って」見るのをやめていた。また、興味を持てずにみるのをやめていた。興味本位では見ることができず見るという行為が自殺の方向に向いていると思っていた。自殺サイトを見ている人（利用者）に対しては「利用したい人だけしていれば良く」「自分自身は無関係」と思っている一方、「悩みを言えない人が利用してしまうのではないか」と考え、「オープンに記入できるのであれば、周りの誰かに直接言えないのか」「悩みのはけ口が自殺サイトになると悪い方向に行くのではないか」と思っていた。そして、悩みを直接人に話すことは難しく、なかなか言えない人に対して、「自殺予防サイト」が必要と考え、それは「匿名性で発散できる場」としての特徴があるからだと捉えていた。そして防止サイトが「もっとオープン（実績などを含め）にされるべき」であるとし、「みんなで考えることが良い」のではないか、自分たちが生きているその根本の考え方を伝えてあげればよいとしていた。しかし、防止サイトにいいイメージはないものもいた。

2）自殺およびネット自殺について

自殺をまず考えた時点で「閉鎖的」「他の選択肢を拒否している」と捉えていた。そして、「しっかり受け止めてくれてくれる人に出会えなかった」「自分の中だけの価値観に縛られるとき」「タイミング」「で

きごとを楽観的に受け取れず、重く受け止める人」が自殺に至ると考えていた。「自分の知人には自殺してほしくなく」、自殺は「いろいろな人に迷惑をかけ」「良くなく、何があっても生きたほうがよい」と思っていた。しかし「自殺したい人は勝手にしたらよい」との意見もあった。自殺方法については、「飛び込み自殺は汚い」「飛び込みは痛そう」「手首を切るのが一番楽」「手首を切るのは痛そう」などとまちまちであった。自殺体は、「苦悩などが想像でき」また「死体自体みたくない」であった。

ネット自殺は、今、「ファッション化している」と捉えていた。「インターネットが重要な役割を果たし」「機械で自殺に繋がることは良くない」と考えている。そのため、ネット自殺の「発端者は殺人行為」と捉えていた。ネット自殺者たちは自殺全般と比較して「ネットに依存している」「閉じこもり周りが見えなくなりネットに誘引され」「一人で自殺するのが怖い」「相手とちゃんと付き合わない」人と考えていた。しかし「ネットで人集めをするのは理解ができない」と考えていた。自殺者に「２０代がいるのにはショックがある」とし、この集団については、同じ目的意識のみで集まった人たちであり「世代の抵抗はないだろう」と考えていた。

インターネットの「掲示板」は、「普通の会話とは異なり」その記入が「人に話した感じではなく」「知らない人とコンタクトが取れる」「返信がなくてもよく」「自分の意見をいって終わり（議論にはならない）」という特徴から、「自殺を助長する人がいて」「人が集まり」実行するのではないか。掲示板ではなく「普通に知り合っていたら誘えない」と考えていた。自殺の掲示板に「毎日触れていたら皆が同じ色に染まっていく」そして「集団の力で助長される」こととなる。「本当に自殺をしたいと思って自殺をする人はどれぐらいいるのだろうか」と感じている。そして集団の力のなかには「のり」も含まれているのだが、「実行することは自殺しかないとなる」と考えていた。

ネット自殺で一般的に利用されている練炭について「痛みなく楽にきれいに、美しく死ねる」「眠っているうちに気がついたら死んでいる」「最期に踏ん切る勇気が必要ない」としていた。

３）ネット自殺に関する記事（想定記事を含む）

形式として、書体および縦書きと横書き、漢字と平仮名（七輪、しちりん）、文字間隔でイメージが異なる。横書きは詳しく書かれていても軽く淡白な印象がある。記事全般について、「安易に記事になると次に同じことが起こるのではないか」「自殺の根拠（理由）が特定されていない場合に記事にすることは問題ではないか」「ネットはだめだと思われるのではないか」との危惧から「ネット自殺報道をしなくてよいのではないか」としたものもいた。しかし「精神疾患や通院と自殺の関係については知るべきである」と考えている。ネット自殺が「稀なことなのか、稀じゃないことなのかが分からず」「語句解説があったらよい」としていた。自殺記事を読む人は自殺に「興味を持った人しか見ないのではないか」と考え「自分は違うとはっきり思った」であった。そしてまた「事実に対して詳しく知りたい人は自分から情報を取りに行く」と捉えている。そのため、「自殺の事実を掘り下げてまで書く必要はない」とする一方、「自殺に至るまでとその影響まで分かるように記述してほしい」との意見もあった。記事中の「意見は信頼していない」。

想定記事全般について、携帯電話や遺書など詳細に書かれていると「背景まで考え」「感情移入しやすい」としている。自殺方法が書かれていると「自殺

したいときに自殺してしまいそう」「後に自殺者が続くのではないか」とし「方法が書いてあるのはよくないのではないか」との意見が出た。自殺者の住所や職業を特定できる記載については、「自殺者の近くに住んでいる人はその人が誰か想像でき」「身内だったら腹が立つ」一方、「赤の他人だと同情や感情がわき」「親しみ、同情、正義感がわく」、そして「悩みの種類や状況が想像でき」るため「詳細に書いてあるほうが良い」としていた。

バージョン1では、「ネットの問題と考えられる」としていた。バージョン2，3では、「通院歴を含め精神医学的な理由(病名の特定)が報道として重要、必要なのかどうか」「通院や疾患をもっている人からの自殺者割合が分からない」との指摘があった。精神科通院歴では、「うつ病」を連想するものがいた。通院歴を「自殺の理由づけにしている」「自分たちとは違うと見たいのではないか」と捉えていた。結局事実として自殺したため「精神科は役に立たない」「精神科に行っても治るわけではない」「通院しているから自殺した」という印象を受けていた。「行かねばならない人、自分が行こうとしていたときに行きにくくなるのではないか」「現在通院している人を遠ざけるのではないか」と考えていた。そのため「記載しないほうがよいのではないか」であった。精神疾患名については、「病名が書かれていると精神科ということにかわりがない」とする考え方から「書かれている疾患によっては受ける印象に違いがある」という考え方があった。「疾患名だけでどういう状態かを提示しないのは問題がある」とし、「その疾患が本当の自殺原因かどうか根拠がない」としていたが「疾患名と自殺の関連が予測できる」であった。そして「疾患が治せなかったために自殺した」と捉えていた。またその疾患の人が記事を見て「周りの人に相談できなくなるのではないか」「これから治そうと思っている人にいやな思いをさせるのでないか」「その疾患の人にネガティブなメッセージとして受け止められるのではないか」「死ぬのかなと思わせるのではないか」としていた。しかし、疾患名があることで「クリアなイメージ」と考えるものもいた。

精神科のイメージとしては、ネガティブなイメージをもつものとそうでなものとに分かれた。ネガティブなイメージとしては、「アメリカと比較してネガティブ」「普通の診療科とは異なり」「なじみがない」であった。その通院している人に対して「暗い」「ひどい」「悪い」「おかしい」「重病」「病んでいる」「壊れた」「問題を起こす」「死んでも仕方がない」「自殺をしてしまうその可能性がある」「不安定」というイメージにおいてレッテルをはってしまい、「自分とは違う」としていた。「日本人はマイノリティを馬鹿にする傾向があり」、対象者も「以前から変な人を見ると自分の中で差別の心があった」との発言があった。実際に友人の通院を聞いたときにショックを受けている。ポジティブなイメージとして「自分で自覚して対処しようとしていた」「立ち直ろうとしていた」であった。たとえ「精神科」の記載がなく、疾患名が記載されていたとして、疾患名によっては精神科とかわりがないという意見と、違いがあるという意見とにわかれた。それは「うつ病」であった。今回の想定記事での疾患の「うつ病」のイメージは、「結構誰でもなるもので身近な病気」であり「自分もうつ病になりかねない」と捉えつつも、「うつ病＝精神科」としている者もいた。身近に感じているものにとっては「うつ病の文字があることで事件が身近に感じられ、自分の周りでも起こるのではないか」と思っていた。そしてまた「自分がうつ病だったとしたら、死ぬのかなと思う人がいるかもしれない」で

あった。「人格障害」については「わからない」状況であった。

「他害の場合は、責任の所在がはっきりしているので、通院歴をはじめとし、わかっている情報をすべて掲載して欲しい」とする一方、「通院歴がある人が犯罪を起こしたと報道していくと差別の心が広がるのではないか」と危惧もしている。

D　考察

調査法として、対象者のサンプリングでは、学生組織を利用して選定した。学生組織はこれまでイベント開催等の活動を通じ、多くの学生（顧客）リストを有しているが、あくまでもその組織と関係をもつものであり、学生一般と捉えることはできない。グルーピングについても、既存研究がなかったために「学生」という大きな枠組みで捉えた。しかし、結果では、それぞれの２グループから同様な結果が多く得られたため、影響は比較的少なかったと考える。

情報の受信者側である学生は、各種メディアの特性や利用方法を理解し、それらを使いこなす能力、そして、メディアから流れる情報を取捨選択して活用する能力であるメディアリテラシー[1]を育成する教育を受けていない。それぞれの情報媒体の正確性、信頼性において独自の経験などから基準を設定し判断している可能性が高かった。インターネットの特性については同じ見解であったが、他の媒体より「調べる」ことや商品購入など生活に密着し、他の情報媒体よりも多く利用していた。ネット自殺者に、メディアリテラシー能力が影響した可能性は否定できない。また精神疾患や精神科に何らかの関係をもった対象者とそうでないものと、精神科や疾患に対する受け止め方が異なっていた。メディアリテラシー能力を向上するためにも、精神科、精神疾患などに関わる、社会的認識の向上を図るためのコミュニケーションが必要と考えられる。

ネット自殺報道に対しては、詳細な自殺方法などの内容から、報道による連鎖自殺も危惧している。これは模倣自殺の観点から[2]、各地で発行されているメディアガイドラインの内容に則していると考えられた[3)-5)]。

E　結論

我が国における自殺に関するメディア報道の在り方を再考し、また、ネット自殺において利用されているインターネットという新たな情報媒体が、時間的にも他の情報媒体よりも利用されていることを考慮し、情報の受け手側のメディアリテラシー育成の方策について早急に考えられなければならない。

F　健康危険情報

この研究において健康危険情報に該当するものはなかった。

G　研究発表

なし

H　知的財産権

この研究において知的財産権に該当するものはなかった。

参考文献

1) http://e-words.jp/
2) Stack S. (2003) Media coverage as a risk factor in suicide. J Epidemiol Community Health. 57(4):238-240.
3) The Samaritans(2002) Media Guidelines. www.samaritans.org [Accessed on 2005/2/20]
4) Michel K, Frey C, Wyss K, Valach L. (2000) An exercise in improving suicide reporting in print media. Crisis.;21(2):71-79.
5) Etzersdorfer E, Vijayakumar L, Schony W, Grausgruber A, Sonneck G. (1998) Attitudes towards suicide among medical students: comparison between Madras (India) and Vienna (Austria). Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 33(3):104-110.

平成16年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
Webサイトを介しての複数同時自殺の実態と予防に関する研究
分担研究報告書

発生要因と予防に関する多角的分析

分担研究者　竹島　正（国立精神・神経センター精神保健研究所）
研究協力者　川野健治（国立精神・神経センター精神保健研究所）
坂元　章（お茶の水女子大学）
清水新二（奈良女子大学　生活環境学部）
町田宗鳳（東京外国語大学）
川端　博（明治大学法科大学院・法学部）
西口直樹（国立精神・神経センター精神保健研究所）

研究要旨：Web サイトを介しての複数同時自殺を予防するため、心理学・教育学・社会学・宗教学・法学の 5 分野の研究者からそれぞれの専門性に基づいた分析と自殺予防対策の提案をしてもらい、予防対策についてまとめた。心理学の立場からは、集団意見の極端化を防ぐようWebサイト運営者を指導すること、自殺サイトで安定している時期やネットからオフラインへ移行した時点で別ルートの情報を呈示することが有効と考えられた。教育学の立場からは、メディアリテラシー教育を学校や社会で行うとともに、精神科医・カウンセラーなど元来自殺予防の専門性を持つ人に対する教育も行う必要であるとの考え方が示された。社会学の立場からは、ネット自殺の要因を若者の人間関係とネット上の人間関係から分析し、結局は若者が希望をもてる社会と健康な心づくりを地道に探ることが肝要との指摘があった。宗教学の立場からは、現代日本では宗教文化の希薄化に伴う通過儀礼の抹殺で生死の境界線が見えなくなったと分析し、現代人に<いのち>の尊厳を実感させるために〈死〉を直視させる必要があるとの指摘があった。法学の立場からは、現行法上はWebサイトで不特定多数者に自殺を呼び掛ける行為は自殺教唆罪を構成しないと解されるため処罰には立法措置が必要であることを述べ、豪州では自殺の呼び掛け人ではなく自殺サイトの管理者を処罰する法案を導入したことを紹介した。ただし行為態様によっては、現行法上も「特定の者」に対する自殺教唆罪を構成し得るものがあると指摘した。このような学際的な分析と対策の提示は、自殺予防に向けた、さまざまな分野の協力体制を構築するうえで重要と考えられた。ここに挙げられた対策はいずれも社会全体の支持と協力が必要なものであることから、本研究の成果をわかりやすくまとめ、実際の社会における取り組みにつなげていく必要があると考えられた。

A. 目的

Web サイトを介しての複数同時自殺（以下、ネット自殺とも表記）を予防するため、学際的な領域の協力を得て、発生要因と予防に関する検討を行なう。また Web サイトを介しての複数同時自殺が他者に自殺死を呼びかける行為であることから、その行為の違法性の有無と、現行法制度に基づく法的介入の可能性について、法学の立場から検討する。これらの成果をもとに、Web サイトを介しての複数同時自殺の予防対策について総括する。

B. 方法

Web サイトを介しての複数同時自殺の予防のため、心理学・教育学・社会学・宗教学・法学の５分野の研究者に、それぞれの専門性に基づいた分析と自殺予防対策の提案を依頼した。

分析を依頼した研究者は、次の５名である。

心理学　：川野健治（国立精神・神経センター精神保健研究所）
教育学　：坂元章（お茶の水女子大学）
社会学　：清水新二（奈良女子大学）
宗教学　：町田宗鳳（東京外国語大学）
法学　　：川端博（明治大学）

そのうえで、各専門領域の分析結果を要約し、Web サイトを介しての複数同時自殺の予防対策を抽出し、自殺予防対策の提言とした。

C. 結果

1. ネット自殺発生に関する心理学的分析（心理学）

マスメディア等で紹介された自殺サイト利用者・ネット自殺遂行者のネット上での発言およびインタビューをもとに、ネット自殺についての心理学的な物語構成を試みた。

① 自殺念慮をもつものは共感を望んでおり、ネットで仲間を発見することができる。そこでは、「死にたいという気持ち」をも受け入れてもらえることも大きい。
② 自殺募集において本気を強調することは少なくない。しかし、自殺サイトで呼びかけあう「本気」には、実際に行為に及ぶ高いリスクを意味するものとは別に、死にたい気持ちを持つ者を演じて共感しあっているものもあると思われる。
③ ネット上では対面式より同調行動は起こりにくいとも指摘されており、問題はネットから同調圧力の大きいオフラインに移った時点であろう。

①～③で、自殺サイトでのコミュニケーションに「一緒に死を考えることで共感できる」という側面のある可能性を述べた。これらのことから、自殺予防対策としては、集団意見の極端化を防ぐように Web サイト運営者を指導することや、自殺サイトで安定している時期やネットからオフラインへ移行した時点で別ルートを呈示することが有効と考えられた。

2. ネット自殺の発生機序とメディアリテラシー教育（教育学）

ネットでは、地理的制約を超えて人々が出会うことが可能で、本音を語